

Vol.29
2023
FEBRUARY



TAKE FREE
ご自由にお持ち下さい

KUJIRA



特集

【わかる！病気のおはなし】
心房細動について

リハビリスタッフの1日

循環器チーム 編

特

集

【わかる！病気のおはなし】 心房細動について

本日は不整脈、その中でも心房細動についてお話させていただきます。

〈不整脈とは〉

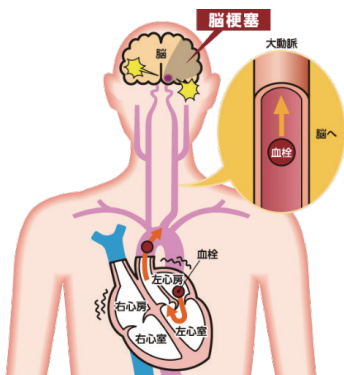
心臓は全身に血液を送り出すポンプの役割をしています。心臓は薄い筋肉の壁でできた袋のような臓器です。正常な場合、心臓には規則正しく電気が発生し、その電気信号が伝わると心臓は収縮、拡張し血液を送り出して脈が発生します。この電気信号の異常により、心臓の拍動リズムが不規則になり脈が乱れることがあります。これを不整脈といいます。

〈心房細動〉

心臓は4つの部屋からできています。正常な場合、洞結節から電気信号が一定のリズムで発生し、それが心房、房室結節、心室の順に心臓全体に伝わり心臓は規則的に拍動しています。しかし、上の部屋、心房で異常な電氣的興奮が生じて、心房全体がぶるぶると不規則にふるえ心臓の拍動を乱すことがあります。これを心房細動といいます。

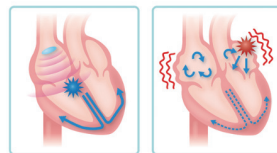
心房細動がおきると、脈がはやく不規則になり、胸部の不快感、動悸、息切れなどの症状が起きることがあります。

心房細動が起きているときは心臓内で血栓ができやすい状態になっています。形成された血栓が血液とともに流れ、脳の血管に詰まってしまうと、脳梗塞を引き起こします。脳梗塞の15%が心房細動による血栓が原因です。心房細動はリズムの不整（心臓の心拍数やリズムが一定でない状態）や頻脈（心拍数が高い状態）自体が命に関わることはほとんどありません。しかし心拍数が高い状態が長く続くと、心臓の収縮機能が低下し心不全を引き起こすことがあります。また心房細動自体で認知症を発症するリスクが高まるともいわれています。



循環器内科 部長

阿多 智之



正常

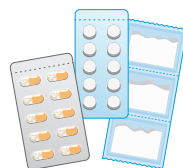
心房細動



このような他の病気を引き起こすリスクのある心房細動ですが、いくつか治療法があり根治できることがあります。

①脳梗塞などの血栓塞栓症の予防

心房細動による血栓形成を防いで脳梗塞などを予防するために、抗血栓薬の内服が行われます。血栓の形成を抑制する薬剤を用いた治療です。特に高血圧、糖尿病、75歳以上、心不全、脳梗塞の既往がある方は内服を検討する必要があります。



②心臓を正常なリズム(洞調律)に戻す、心房細動中の脈拍数をコントロールする

心房細動から正常なリズムに戻すことによって、心房細動に伴う症状を消失させ、心臓の収縮力の低下や脳梗塞などの合併症を防ぐことができます。脈拍の速い心房細動を放置すると心臓のポンプとしての機能が弱くなることがあります。心房細動が続いていても薬により適正な脈拍数にコントロールすることによって合併症を防ぎ、症状を軽減することができます。

抗不整脈薬は心房細動を正常なリズムに戻したり、維持したりするために用いられます。しかし抗不整脈薬により完全に心房細動が予防されない方や効果のえられない方もいます。長期に内服を継続することによる副作用の問題があります。カテーテルアブレーションは発症早期であれば根治も期待できる治療法のため、近年では第一選択に考えられるようになってきています。心房細動は肺からの血液を左房に流す肺静脈という血管に発生した異常な電気が心房に伝わるのが原因であることが多く、その異常な電気興奮が左房に入り込まないように足の付け根から挿入したカテーテルで左房壁と肺静脈壁の接合部を焼灼することによって治療することができます。

心房細動になった場合、抗凝固療法やカテーテルアブレーションなどの治療法を考えることは大切ですが、これらを受けていれば安心というわけではありません。抗凝固薬には出血が止まらないというリスクがあります。カテーテルアブレーションには再発するリスクがあります。生活習慣病が多い程そのリスクが高まる事が分かっており、生活習慣を見直すことは心房細動の発症予防だけでなく治療の効果を最大限引き出すためにも大切です。

リハビリスタッフの1日

循環器チーム 編



理学療法士
(2年目) 萩原 蒼

循環器チームは心不全や心筋梗塞、大動脈解離などといった命に関わる重大な疾病を担当するチームです。安全で効果的なリハビリテーションを提供するため、日々勉強に励んでいます。



8:00

出勤・情報収集



少し早めに出勤して担当する患者さんの情報を調べています



8:30

朝礼・チームミーティング

チームで患者さんの情報共有をして、今日のスケジュールを調整します



9:00

リハビリ午前・歩行訓練



心臓の回復にあわせて、入院前の生活に戻るための目標を決めます



12:00

お昼休憩・コンビニ



院内にあるローソンでお昼ごはんを買って、1時間休憩を取ります



13:00

リハビリ午後・エルゴメーター



心臓に負担をかけすぎないように、自覚症状を聞きながら運動を調節します



17:00

カルテ記載



他のスタッフにもわかるようにリハビリの様子をカルテに残します

今日は5000m
走るぞ〜!



18:00

帰宅



仕事終わりには自分磨きのため週3回ランニングしています

お疲れ様でした



スマートベッドシステム

医療機器
紹介

No.5



2022年12月より一部の病棟でスマートベッドシステムの運用を開始しました。

スマートベッドシステムとは患者様に係る様々な情報を集約・統合し、電子カルテと連動したベッドサイド端末やスタッフステーションのモニターにわかりやすく表示させることができるシステムです。

患者様・スタッフ双方の負担を低減しながら、より安全で安心な療養環境の構築に寄与することを目的として徳洲会グループで2施設目の導入施設となりました。

患者様の状態を素早く、負担をかけずに把握できる



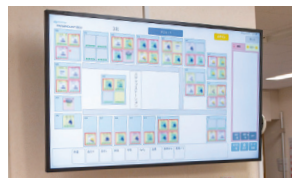
▲ベッドサイドのモニター
病床1つにつき1台のモニターがベッドサイドに設置されています



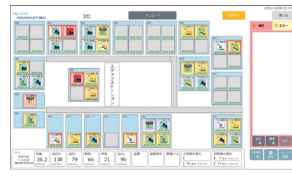
▲ベッドサイドのモニター表示
患者様の状態がピクトグラムを使ってわかりやすく表示されます

マットレスの下に設置されている非接触型の体動センサーを通して、睡眠状態・呼吸数・心拍数などを計測し電子カルテに記録ができます。非接触型のセンサーなので、患者様に計測機器を取り付ける必要がありません。また体温や血圧、酸素飽和度などのバイタルサインもスマートベッドと測定機器との通信機能により、即座に電子カルテに反映させる事ができ、転記の間違いも防止することができます。

スタッフ間での情報共有がスムーズに



▲スタッフステーションの大型モニター



▲スタッフステーションのモニター表示
病棟にいるすべての患者様の状態が一目でわかります

ベッドサイドに設置されているモニターに患者様の状態を表示させることができます。例えば患者様の移動方法(歩行・杖・車椅子など)や食事の制限、ベッドにいない患者様の状態(検査中・リハビリ中など)、さらに転倒リスクなどをピクトグラムでわかりやすく表示させることができ、スタッフ間で共有すべき情報がベッドサイドでもリアルタイムで確認できるようになりました。また同様の情報はスタッフステーションやスタッフが携帯している端末でも確認できます。

TOPIC 「合同感染対策訓練」初開催!!

12月、当院で初めて「合同感染対策訓練」を開催しました。

今回は、あきる野総合クリニック、みずほ病院、花輪病院、武蔵野徳洲会病院に参加頂きました。

防護服の着脱訓練と、実際に外来で感染症患者が発生したという想定の実演訓練を行いました。

参加者からは「1度ではなく繰り返し訓練が必要」という感想が多くあり、今後も継続していくことが必要であると感じました。



▲防護服着脱訓練の様子
防護服を正しい順序で目標時間内に着脱できるようにすることを目的とした訓練です



▲現場での訓練の様子
外来で感染症患者が発生した場合に、適切な場所で適切な診察を行うことを目的としたシミュレーション訓練です

医療法人徳洲会

 東京西徳洲会病院

TOKYO NISHI TOKUSHUKAI HOSPITAL

〒196-0003 東京都昭島市松原町3-1-1

TEL:042-500-4433(代表) 24時間対応



病院公式
ホームページ



看護部公式
Instagram

お知らせ 看護補助者(看護助手)を募集しています

●正社員・パート(週4日~)・週1日アルバイト!

●未経験者も歓迎! ゆっくり丁寧にご指導します!

看護部ホームページもご覧ください。ご質問などお気軽にお問い合わせください。

東京西徳洲会病院 総務課人事 ☎042-846-7112 (9時~16時)

 東京西くじら訪問看護ステーション併設

☎042-847-3660